

附属中学校・高等学校  
校長 西尾 勝

## 2022年度 自己点検・評価(附属中学校・高等学校)について

神戸学院大学附属中学校・高等学校では、自己点検・評価について、『第2次中期行動計画(2018—2022)』の年次達成度報告書で行っている。

年次達成度報告書は、中期行動計画実行のための『年次目標の設定』を年度はじめに行う事として、校務運営委員会による検証を行い、その結果をホームページに公表している。

2022年度自己点検・評価(附属中学校・高等学校)について、下記のとおり報告する。

### 記

#### 1. 総括

総括については、2ページのとおりである。コロナ感染拡大に伴い目標どおりに進まなかった事業があった。

#### 2. 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価

中期計画(第3層)における達成度評価については、3ページのとおりである。

なお、2022年度の自己点検・評価については、附属中学校・高等学校のホームページで公開予定である。

#### <公開場所>

附属中学校・高等学校ホームページ『中期行動計画』のページ

#### <アクセス方法>

附属中学校・高等学校ホームページ⇒『学校紹介』

⇒『中期行動計画』内 『2022年度自己点検・評価』

## 2022 年度年次達成度報告書の総括

1912 年、校祖・森わさは、「腹のできた底力のある人間」「真に社会に役立つ人間」を育てることを教育の目的とし、それを創立時の校訓「報恩感謝」「自治勤労」に要約し、己をふりかえる指針として「照顧脚下」の精神を強調しました。現在の校訓「照顧脚下」「切磋琢磨」は校祖の理念を継承し、自然の恵みを忘れず、自分を見つめ、たゆまず学び、積極的に行動し、社会とともに生きる人間の育成をめざします。

その教えの実現のため、創立 100 周年を契機に、2013 年度から 5 年間の『第 1 次中期行動計画(2013-2017)』に基づき、2016 年 4 月にポートアイランド全面移転、2017 年に同キャンパスに中学を開設するなど、目覚ましい発展を遂げ、中高一貫、中高大連携教育を実現しました。2017 年度には 2018 年度から新たな 5 年間の計画として『第 2 次中期行動計画(2018-2022)』を策定し、5 年目の 2022 年度は第 1 次中期行動計画の成果及び 2021 年度までの自己評価を踏まえ、新たな計画・実行を進めていきました。

この度は 2022 年度の年次達成報告書を取りまとめましたので次のとおりご報告いたします。

神戸学院大学附属中学校・高等学校 第2次中期行動計画(第3層)2022年度達成度評価表

		評価	理由
中期目標	中高大連携教育を推進し、社会の変化に対応した教育活動を展開することで、教育力の向上を図ります。		
	1	新教育課程(4コース)並びに新しい高大接続に沿ったカリキュラムの実践	B 学習指導要領の改訂で高校1年生からカリキュラムが新しくなった。観点別評価の導入で生徒の学習意欲を高めるための評価が行われるようになった。高大連携授業も神戸学院大学への進学が多い総合進学文系コース中心に実施し、課題レポート集を発行した。中高一貫と特進コースは総合的な探究の時間においてそれぞれの特色を發揮し、KG LIFEに活動報告をまとめた。
	2	建学の精神に沿った情操教育の推進	B 中高ともに4月に予定していた新入生の宿泊研修をおこなうことができ、学校生活を始めるにあたっての「建学の精神」などを踏まえた意識改革についての時間を取ることができた。生徒の自主的な取り組みについては、制限はあったが工夫して実施することができた。ダンス部、軽音楽部、生徒会の神戸マラソンボランティア、地域との合同の掃除活動などへの参加、学院祭での地域の企業や団体との共同企画などは中止せざるを得ない状況であった。
	3	教育環境の整備充実	B 安全、快適な学校施設の検証の結果、予算調整を行った上で、武道場の空調設備、グラウンド・人工芝の夜間照明の設置工事を行った。奨学金、支援金については、生徒・保護者に向けて広報を行った。避難訓練の実施はできなかった。
	4	多方面にわたる中高大連携の推進	B コロナ禍が収束し、高大連携授業、学部紹介、KPCキャンパスツアー等を対面で実施した。教育実習生の受け入れも積極的に行い、複数名を講師として迎え入れることになっている。また、教育実習生はチューターとしても活躍している。高大連絡調整会議で中高大連携の活動に関して逐次報告している。

中期計画	5	国際理解教育の活性化	C	<p>コロナ禍の継続により、今年度も海外修学旅行を始めとする海外研修は全く実施できなかった。一方、留学に関しては、高校2年生のグローバルクラスのニュージーランド留学が3年振りに復活し、27名が2か月のニュージーランド留学に参加し、内1名はさらに3か月留学期間を延長した。この他、1年間の長期留学に出発した生徒が2名おり、個人的な留学は元に戻りつつある。高校グローバルクラスと中学生に対しては、ネイティブの講師による夏期の英語研修を実施し、高校グローバルコースと中高一貫コースでは、英会話の授業においてマンツーマンのオンライン英会話レッスンを取り入れ、継続的に取り組んだ。英検やGTECは全校生を対象に積極的に受験させ、対策学習に取り組むことで、コミュニケーション力の育成を図った。</p>
	6	ICT教育環境の充実および教育の情報化推進	A	<p>教育用アプリ(Classi/ロイロノート・スクール/Microsoft Teams)を積極的に活用し、遠隔授業にも対応した。併せて、ICTを使用した教職員研修(Find! アクティブラーナー)を継続的に実施した。また、すべての普通教室・特別教室にプロジェクタを配備して活用を開始した。デジタル採点(リアテンド)も導入し、採点業務の軽減とミス削減を図った。一方で、デジタル教科書の導入は、個人負担増の問題を克服すべく前向きな検討継続が必要である。国際交流における活用では、「オンライン英会話」の機会を生徒に提供した。資格取得に関しては、約9割の生徒がP検3級を取得した。また、2022年度は、高等学校が局長表彰、4名の生徒が大臣表彰を受けるなど、ICT機器の活用による生徒の知識・技能の向上、作品制作と応募を通じた主体的な社会貢献活動において成果をあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信月間2022(近畿総合通信局長表彰)…高等学校</li> <li>・交通安全年間スローガン 最優秀賞(内閣総理大臣表彰)…高校1年生徒</li> <li>・毎日パソコン入力コンクール 全国大会 第1位(総務大臣表彰・2年連続) …高校2年生徒</li> <li>・道路ふれあい月間標語 優秀賞(国土交通大臣表彰・2年連続)…中学校2年生徒</li> <li>・児童福祉週間標語 最優秀賞(厚生労働大臣表彰)…中学校3年生徒</li> </ul>
	7	課外活動の振興	B	<p>新型コロナウイルス感染症に関する社会的状況などが落ち着き、生徒会活動や課外活動における動きも活発になってきた。文化会・体育会問わず、附属から進学した生徒が主力として活躍する姿も見受けられるようになった。また、指導者、選手間交流も盛んに行われている。中高大施設の相互利用も定期的に行われ、新たに貸出ルールも策定された。中学校女子柔道部が初の近畿大会出場(個人)を果たし、男子バレーボール部は兵庫県大会準優勝。またヴィッセル神戸へ2名入団するなど、特に運動部における躍進が著しかった。</p>

		8	広報活動の充実	B	<p>コロナ禍の影響で学習塾、中学校への広報活動が限定的にならざるを得ない中、募集定員以上の入学生を確保することができた。今後の少子化を受けて、ますます定員確保は厳しくなることが予想される。大学進学実績も大きく影響するので、各コースが掲げる希望進路を実現させることで、進路実績の向上を図っていきたい。尚、中高一貫コース1期生の進学先は、国公立大学、私立大学、海外の大学と様々であった。特徴的だったのは、薬学、看護、栄養学、理学療法、口腔保健といった医療系学部へ4割近い20名以上、また、神戸学院大学附属校の強みを活かし神戸学院大学へは、21名が進学した。希望進路実現に向けた1期生の頑張りを学習塾、中学校、保護者へ伝えていく。</p>
--	--	---	---------	---	---

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る